

阪神南出会いサポートセンター

「ひょうご出会いサポートセンター」では結婚を希望される独身男女の出会いをサポートしています。

昨年7月より、会員の皆様のより良い活動に向けて、お相手の検索閲覧やお見合い申し込みが自分のスマートフォンなどのできるスマホ婚活が始まりました。

さらに今後、複数お見合いや、センター内に限定していたお見合いがホテルやカフェ等のできるようになるなど、より一層利便性の向上を図っていきます。

また阪神南センターでは、独身男女の出会いを支援する、「このとり大使」と共催の「縁結び交流会」を、今年はバレンタイン前の2月7日(日)に開催します。

お知り合いの独身男女がいらっしゃいましたら是非ご紹介ください！詳しくは出会いサポートセンターHPをご覧ください。(申込締切:1月10日(日))

センター職員一同、少しでも皆さまのお力になれるようお待ちしております。



出会いサポートセンターHP



LINEお友だち追加はこちらから



〒660-0881 尼崎市昭和通2-6-68
尼崎市中小企業センター 6階
TEL:06-6481-7370 FAX:06-6481-7401
受付時間 火・金・土・日 9:00~17:15
駐車場 有り(有料)



左記「縁結び交流会」のお申込みはこちらから

フィルタリングとルール作りが大切!

インターネットは、使い方を間違えるとトラブルや犯罪に巻き込まれる危険があります!

- ネットいじめ
- 自撮り被害
- SNS利用による犯罪被害
- ネット依存
- 個人情報流出

- ネット犯罪の被害に遭う子どもの約9割がフィルタリング未設定
- 子どもたちのネット依存傾向が増加中、また低年齢化が進行中?!



子どもたちが安全に安心してインターネットを利用できるようになるためには、保護者・大人が子供たちと一緒にフィルタリングを活用してルールを決め、見守っていくことが大切です。

フィルタリングとは… (兵庫県では原則義務化)

子どもがインターネットに接続しようとしたとき、誤って有害な情報に触れることのないようにするシステムをいいます。

簡単な設定で、有害サイトのアクセスや、アプリの利用時間などを制限することができます。フィルタリングをしても、LINEやTwitterなどは利用できます。

賛助会員ご入会のお願い

～青少年健全育成のためにご協力を～

阪神南青少年本部が実施している自主事業は、皆さまからの温かいご支援(賛助金)によって行われています。

阪神南地域の青少年健全育成のために是非「賛助会員」にご入会ください。

<賛助会費>

個人会員	… 年間 1口	2,000円
団体会員	… 年間 1口	10,000円

※ご入会手続き・お問い合わせ先
阪神南青少年本部 06-6481-4634

賛助会員カードを提示すると県内の一部施設の入館料・入園等の割引を受けることができます。

兵庫県立美術館 / 神戸市立博物館 / 兵庫陶芸美術館
兵庫県立淡路夢舞台温室 <奇跡の星の博物館>
兵庫県立フラワーセンター など

ほかにもたくさんあります。



公式 facebook 始めました!!

[アカウントはこちら] ぜひ「いいね!」押してね!
<https://www.facebook.com/seisyounen.hm>

阪神南青少年本部では公式 Facebook を始めました。Facebook では、阪神南青少年本部の活動や事業など、より身近に感じていただけるよう、情報を発信していきます。

* 阪神南青少年本部 * なかま通信 Vol.37



〒660-8588 尼崎市東難波町 5-21-8
(阪神南県民センター 県民交流室 県民・産業振興課内)
TEL: 06-6481-4634 FAX: 06-6482-0579

阪神南青少年本部
ホームページQRコード



「ルールを変える」

阪神南青少年本部長 阪本 茂 樹



新年明けましておめでとうございます。

皆様方にとって良い年になるよう衷心よりお祈り申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルスに悩まされた1年でした。一日も早く日常が戻ることを願うばかりです。

そんななか、コロナ禍で私たちが当然と思っていた社会の仕組みも、徐々に変わろうとしています。ここで変わらなければどこで変わるのかという分岐点に日本はあると思います。

新型コロナウイルスにより、多くの課題が浮き彫りになりました。既存の制度では対応しきれない現状が広く社会に共有される契機になりました。

ルール作りは政治家や官僚がやるものだと思いますが、それだけでは足りない時代が来ています。新しい事業を立ち上げようとしても、既存

の法律では対処しきれないことがあります。

日本はルールを守るばかりで、変える発想がありません。テクノロジーばかり発達していて、実は私たち人間が発達できていません。技術は進歩しても感情は石器時代、組織は中世で止まっているとも言われています。

私たちが進化していかなければなりません。自分達がワクワクできる未来に向かって進んでいると感じられる世の中にしたいものです。次代を担う子どもたちのためにも。

皆様方のご健勝にてのご活躍を祈念申し上げます。



阪神南青少年本部長表彰

令和2年11月30日、尼崎市総合文化センターアルカイクホール・オクトにおいて、阪神南地域で優れた活動をされた方々へ阪神南青少年本部長表彰を行い、出席された谷口龍盛さんほか2名の方が受賞されました。

【受賞された方】

- 谷口 龍盛さん (尼崎市子ども会連絡協議会リーダー)
- 西口 一野さん (尼崎市子ども会連絡協議会リーダー)
- 中山 愛沙美さん (鳴尾バトングループ指導者)



令和2年度 阪神南県民交流大会にて

第16期こころ豊かな人づくり500人委員育成事業 「青少年サポートセミナー」の活動報告



実践講座

尼崎市こどもの育ち支援センター「いくしあ」見学と講義

令和2年10月20日(火)

阪神北青少年本部と合同で開催しました。「いくしあ」施設見学後、発達相談支援課 中井 優子さんより「発達障害とその支援」をテーマにお話いただきました。具体的な例を交えて解説いただき、今まで知らなかったこと、自分に何ができるかを考える機会となり、とても貴重な経験となりました。

※「いくしあ」は“子どもファースト”をモットーとして、日々の暮らしのなかで課題や困難を抱える子どもたちと子育て家庭に寄り添い、支えるための総合施設です。



特定非営利活動法人「やんちゃんこ」活動体験と講義

令和2年11月16日(月)

「子育て支援は親支援」をモットーとして、切れ目のない支援と居場所づくりに取り組まれている団体で、活動の一つ「やんちゃんこ親子クラス」のお誕生日会に参加しました。体験活動の後、濱田英世代表理事より「やんちゃんこの活動」についてお話をいただき、支援の在り方について考える機会となりました。



ご挨拶

こころ豊かな人づくり500人委員会 阪神南OB会 会長 添田 ひろみ

「新年あけましておめでとうございます」

昨年は思いもよらないコロナ禍により、ほとんどの事業が無くなる事はもとより、会議すら滞る事態に、どうしてよいか模索の日々でした。自粛が明けても尚、以前のように活動できない中、スマホの啓発グッズの作成をし、少しずつですが動き出しました。今年も感染症に十分気を付けながら、自分たちらしい活動をしていきたいと思っています。



活動報告 こころ豊かな人づくり500人委員会阪神南OB会と連携して啓発活動に取り組むため、「ひょうごスマホ宣言2020」の啓発マスクケースを作製しました。



第42回少年の主張兵庫県大会 「中学生のメッセージ2020」

令和2年9月26日(土)

兵庫県民会館 けんみんホール

中学生が日常生活の中で心からの思いや考え、感銘を受けたことを自分自身の言葉でまとめ、広く発表する「中学生のメッセージ2020」が行われました。

阪神南地域からは、武庫川女子大学附属中学校3年の元浦綺花さんが出場し、「教育を第一に」と題し中学生らしい鋭い目線で教育の大切さを力強く訴え、**審査員特別賞**を受賞しました。



「教育を第一に」

武庫川女子大学附属中学校3年 元浦綺花

当たり前だと思っていることが一部の地域ではそうではありません。そんなときに一人の女子学生が立ち上がりました。彼女の名前は、マララさんです。教育を受けるために、そして女性の権利のためにいろいろな困難に立ち向かいました。

私は武庫川学院に通っており、毎日とても充実した学校生活を送っています。昨年、学校で行われたオラトリカルコンテスト、という英語のスピーチ大会に出場し、マララさんの国際連盟でのスピーチを暗唱しました。教育を受けられない人がたくさんいることを知り、学校に通えて、さらに女子だけの中で勉強できる環境に感謝しなければならぬと思いました。本校のように八十年前から女子教育に力をいれている学校もあれば、たくさんの技術が発達している現代でも教育を受けられない地域がある。このような現状がある限り、マララさんの言う通り平和は訪れないと思います。平和とは何か、を考えると今までに何度もありました。戦争が起こらないこと、みんなが笑顔で過ごせること、私はこの二つを達成できたらいいのではないかと考えていました。マララさんの考える平和への解決策とは、教育が受けられることです。教育は小さい頃から行われて、大人になるにつれて学んだことが発揮されていく大事なことだと思っています。平和につながる最大の原点は教育なのではないか、私はそう考え始めました。

もちろん教育だけが大事ではありません。私たち女性に対する権利も守られなければいけません。日本はもちろんそうですが、世界でもまだ男性が中心となって社会を作り上げています。私も生活をしていて感じるがあります。例えば、男性と女性の管理職になっている人数の差、女性政治家の圧倒的な少なさなどです。マララさんの地域では、女性というだけで教育を受けられない、社会に対する発言ができない状況があると知り、

疑問と怒りが湧いてきました。なぜ、社会において女性というだけで制限されなければならないのか、男性よりも冷遇されなければならないのか、一人の人間として平等に権利を受けなければならないのか、女性か男性かという性差で区別されることは許されることではありません。少なくとも私の周りでは、強くたくましく、勇気のある女性も増えています。私もこのような素敵な女性になれるよう、今私ができる勉強に励み、将来につなぐ準備をしたいと考えています。マララさんを知ってる？と聞くと、知らない、という友人が多かったです。私はスピーチ大会という形で発表する機会がありましたが、タリバン政権に標的にされ生死をさまよった一人の女子学生が、当時わずか十六歳で各国を代表する人たちの前で発言した内容は、特に私たちの年代がもっと知るべきことで、世界に目を向けるきっかけになるのではないのでしょうか。暗唱をした際に一番印象に残っている言葉は次の通りです。

「本とペンを手に取ろう。最も強力な武器です。一人の子供、一人の教師、一冊の本、一本のペンが世界を変える。教育だけがたった一つの解決策です。」

女性が社会で活躍するにも、世界が平和になるためにも、何より大切なのは教育なんだ、という彼女の熱い思いが伝わる文章だと思いませんか。千でも万でもなく、「一」でいい。一つさえあれば、世界を変えられるチャンスだと思います。

今の時代、私の知らない人権問題で苦しんでいる人が多いはず。どんな人権問題も教育があればいつかは解決できる、私はそう信じています。女性が平等に受ける権利や、世界中の人が教育を受けられる環境が一刻も早く整いますように。そして、爆弾や銃の代わりに、本とペンがあふれる平和な世界になりますように。心から願っています。